

J Aみのり
第4次営農振興計画書
・営農振興ビジョン
2013-2015

抜 粋


地域特産物の育成と産地の拡大

全国に誇る酒造好適米「山田錦」を代表とする醸造用米と、食味を重視したうるち米の品質をより高めることにより農家所得の向上を図ります。また、転作田や遊休農地などを活用した生産拡大を支援いたします。

■酒米

*酒造会社の要望に沿った計画的な生産

- ・ 計画生産により、酒造会社の要望に沿った生産を継続して行います。
- ・ JA全農などの関係機関と連携し、酒造会社とより安定した関係を築きます。
- ・ 全国の酒造会社に「蔵元訪問」や「山田錦通信」により情報を発信することで、地理的距離を越えた緊密な関係の充実を継続して行います。
- ・ 地域と酒造会社との村米(契約栽培)関係を拡充することで、より一層求められる酒米の生産を支援します。

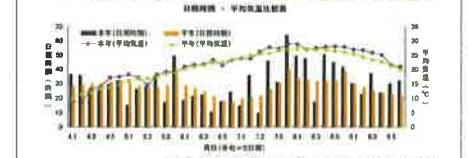


山田錦通信 NEWS 平成24年産 山田錦の栽培

山田錦通信は、酒造会社と生産者の間に架け橋を架け、最新の栽培技術や市場動向を伝えるための情報誌です。今年も、酒造会社からの要望に沿った計画的な生産を継続して行っています。

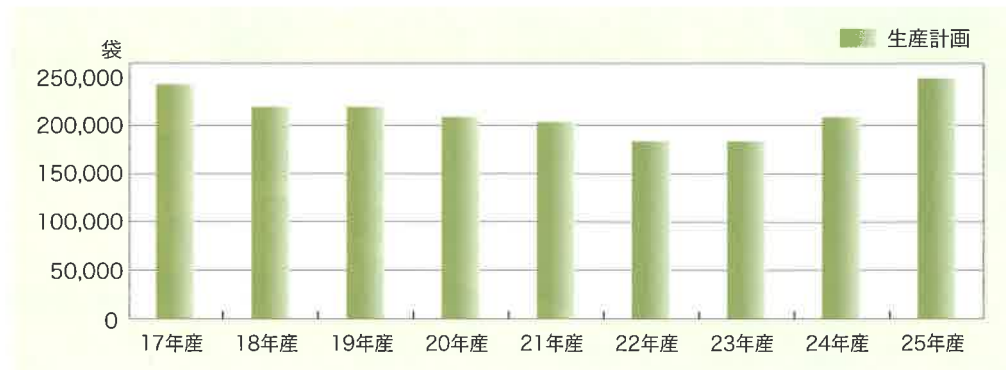
栽培年度	平成24年産		平成23年産	
	栽培面積 (ha)	栽培比率 (%)	栽培面積 (ha)	栽培比率 (%)
17年産	5,800.0	3.0%	5,541.0	3.0%
18年産	6,200.0	3.0%	6,122.0	3.0%
19年産	10,000.0	5.0%	11,700.0	5.0%
20年産	9,000.0	4.5%	8,800.0	4.5%
21年産	8,000.0	4.0%	7,700.0	4.0%
22年産	7,000.0	3.5%	6,800.0	3.5%
23年産	8,000.0	4.0%	7,700.0	4.0%
24年産	9,000.0	4.5%	8,800.0	4.5%
25年産	10,000.0	5.0%	11,700.0	5.0%

栽培面積・平均収量推移



このグラフは、平成17年度から平成25年度までの栽培面積と平均収量の推移を示しています。栽培面積は概ね増加傾向にあり、平均収量も安定した水準を維持しています。

■山田錦の生産計画



*酒米の品質向上と収量の安定

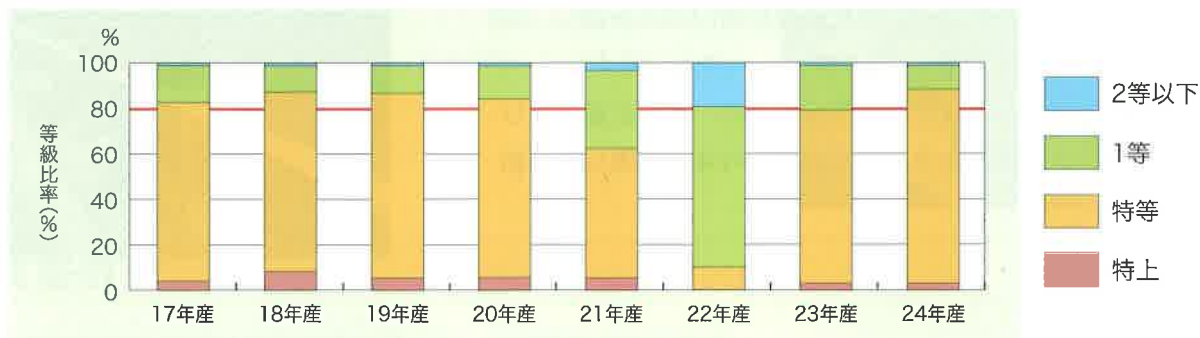
- ・ 関係機関と連携して地域毎に展示圃を設置し、営農指導活動や栽培こよみに活用する取り組みを行います。
- ・ あぜみち講習会や穂肥診断をより充実させます。
- ・ 平成23年産から導入した2.05mmのふるい目を標準として、より品質を向上させた「グレードアップ山田錦」を目指します。



グレードアップ山田錦旗

■JAみのり山田錦 年度別等級比率

JAみのりは、上位等級(特上・特)比率80%以上を目指しています。



*交流会を通じた酒米振興

- ・酒造会社と生産者、JAが一体となったイベントを開催し、日本酒の消費拡大と酒米の生産振興を図ります。
- ・「特産山田錦を使ったお酒で『乾杯は日本酒で!』」運動を継続して行います。
- ・各地域で開催する生産者大会などを通じて、品質向上の意思統一を図ります。



山田錦まつり (三木市)

■うるち米

*JAみのりブランド米の確立

- ・良食味品種、きぬむすめ・コシヒカリ・ヒノヒカリの作付奨励を継続して行います。
- ・ひょうご安心ブランド米や特別栽培米など、他産地との差別化を図るJAみのりブランド米の研究を継続して行います。
- ・関係機関と連携して、展示圃での栽培データと食味分析による総合的な良質・良食味米の研究を継続して行います。
- ・農家から募集し、食味分析を実施することで、良食味米生産のサポートをいたします。

■食味分析の実施



お知らせ

食味分析は年間を通じ、無料で行っています。
詳しくは、お近くの営農経済センターにおたずねください。

■きぬむすめ食味アンケート結果

消費者の反応

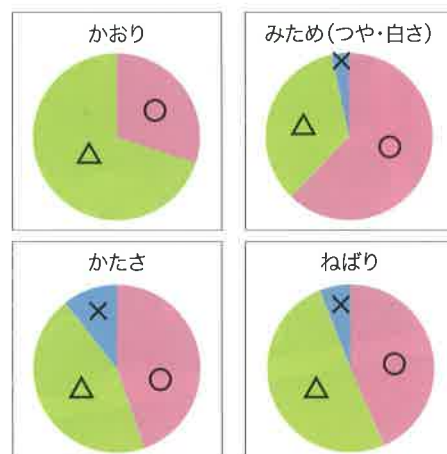
ファーマーズマーケット「ふれすこ」で、「きぬむすめ」を購入された方におたずねしました。



回答者数:120名
平均点数:84点(100点満点中)

きぬこちゃん

○: よい △: ふつう ×: わるい



かたさ=×は、米質がかたい。

■安定経営による畜産物生産

- ・関係機関との連携により、飼養管理技術の向上を図り、高品質な畜産物生産に取り組みます。
- ・生産費の低減による安定経営を行うため、飼料生産に取り組むなど耕畜連携による新たな飼料給与体系の確立を目指します。



■地域振興作目の支援強化

- ・たきのなす・黒大豆など先人が築き、守り、引き継がれてきた地域特産作物の生産拡大と品質向上、販売力強化を関係機関と連携して行います。
- ・ゴマ・ニンニクなど新規導入品目が、新たな地域特産品目として定着し、拡大する取り組みを継続して行い、農家所得の向上に努めます。
- ・複数品目による輪作体系と作業効率の改善を図ることで、農地の有効活用と収支改善の提案をいたします。



滝野なす品評会

■地産地消運動の展開

*ファーマーズマーケット「ふれすこ」の展開

- ・ふれすこは、地産地消運動の拠点として、安全・安心な農産物の提供と充実を図ります。
- ・ふれすこは、農家の経営の安定に貢献するだけでなく、農地の多面的機能の発揮と、フードマイレージ（食料の輸送に必要なエネルギーや燃料消費に伴う環境負荷を一定の基準で数値化したもの）の低減に貢献します。
- ・新会員の加入促進を図ります。
- ・端境期対策や新品目を提案することで、周年栽培や安定出荷を可能にし、お客様のニーズに応えるとともに所得の向上を図ります。
- ・他のJAが運営するファーマーズマーケットと連携することで、消費者のニーズに応えると共に、生産拡大を図ります。



■市場出荷

市場出荷は、ファーマーズマーケットや農商工連携と組み合わせることにより、地域特産品としてのブランド化を図ります。



■食農教育

- ・学校給食への食材提供支援を通じて、地場農畜産物の安全と生産について学ぶ機会を提供します。
- ・親子農業体験スクールや農作業体験イベントを通じて、農と食について学ぶ機会を提供します。



親子農業体験スクール・農作業体験イベント



地域農産物の生産向上支援

関係機関とTAC活動、営農指導事業の連携により、栽培指導活動や営農相談活動を充実します。

■高品質米生産に向けた取り組み

「米作りは土づくり」を合言葉に土づくりの重要性を継続して啓蒙いたします。

*具体的な取り組み

- ・畜産農家と連携し、良質な堆肥の散布活動を継続して取り組みます。
- ・JAみのりオリジナル土づくり資材「ニュー土改王」の無料散布活動を継続して実施いたします。
- ・土づくり大会やあぜ道講習会を各地域で開催いたします。



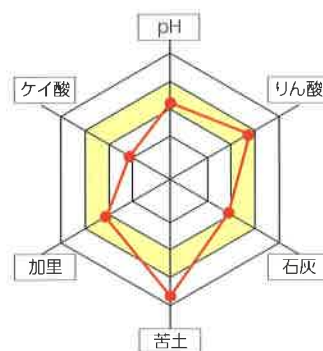
■土壌分析を継続して実施

土壌を科学的に分析し数値化することで、作物の生育に合った土壌条件に整え、作物の生産向上とコスト削減を支援いたします。

*具体的な取り組み

- ・土壌分析結果を個別処方箋にまとめ、営農指導活動の基礎資料として活用し、良質な作物の生産向上を支援いたします。
- ・また、分析結果を各地域に設置する試験圃などに反映させ、栽培こよみの充実をいたします。

■H20年分

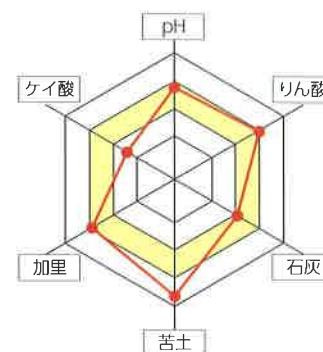


■JAみのり管内の土壌分析結果(平均値)

分析項目	目標値	分析値		判定
		H20年分	H22・23年分	
pH(H ₂ O)	6.0 - 6.6	6.1	6.4	適正
りん酸(mg/100g)	10 - 30	26	29	適正
石灰(mg/100g)	200 - 400	231	233	適正
苦土(mg/100g)	25 - 35	39	37	過剰傾向
加里(mg/100g)	20 - 30	21	28	適正
ケイ酸(mg/100g)	25以上	16	17	不足傾向

※判定は、H22・23年分を対象としています。

■H22・23年分



■JAみのり管内の土壌分析結果について

- ・土壌分析は、土（耕土）の健康診断です。土も人間と同じく科学的に分析することで、視覚や感触でわからない土の状態を数値で知ることが出来ます。PH（酸性度）や肥料成分の過不足を知ることによって、健康な作物の栽培とコスト削減を図ることが出来ます。
- ・分析結果は両年とも同じ傾向を示しています。
- ・「苦土」は過剰傾向にあります。JAみのり管内の多くの地域で苦土はもともとの土壌に多く含まれています。
- ・特に「ケイ酸」はJAみのり管内全域で不足傾向にあります。ケイ酸は植物が健全に生育するために無くてはならない成分です。特に稲は多くのケイ酸を必要とします。稲わらによる還元や用水からの流入により、ある程度はまかなえますが、それだけでは十分ではありません。
- ・施用した肥料は作物が生育することによって、吸収され減少します。



土壌分析作業

お知らせ

毎年11月ごろに分析する土壌の募集をしております。採取や提出の方法など、詳しくはお近くの営農経済センターにおたずねください。

■安全安心な農産物の生産

*生産日誌の回収と確認

- ・出荷農産物の生産日誌を100%回収し、生産履歴管理の徹底と情報開示に務めます。

*農薬の適正使用

- ・消費者の求める安全・安心に応えるため、農産物の残留農薬検査を実施します。
- ・各種講習会や営農指導活動、栽培こよみ等を通じ、適正な農薬使用の徹底に努めます。
- ・営農経済センターや支店に配備した、生産者自らが最新の情報を得られるシステム「JAみのり 営農情報電子図書館」の利用促進を図ります。



農業電子図書館

■残留農薬検査

24年度実績
29検体
128成分

27年度目標
30検体
100成分

*GAP (農業生産工程管理) 導入に向けた取り組み

生産履歴記帳は出荷する米や野菜で既に取り組んでいただいておりますが、さらにGAPの取り組みが求められております。JAみのりは、GAPに取り組んでいただくための研究をすすめます。

・GAPに取り組むメリット

- ①適正な安全管理を行うことが、産地の信頼向上につながります。
- ②適正な栽培管理を行うことが、農産物の品質向上につながります。
- ③農作業工程の見直しを行うことが、作業の効率化と経営の改善につながります。
- ④生産情報を記録することが、トレーサビリティやJAS規格の対応につながります。

GAP：農業生産工程管理

(GAP：Good Agricultural Practice)

農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に則して定められた点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のことです。(農林水産省HPより)

*「ひょうご食品認証制度」の取り組み拡大

- ・兵庫県が「兵庫県認証食品」として認証する「ひょうご安心ブランド」や「ひょうご推奨ブランド」への登録の拡充を行います。
- ・「ひょうご食品認証制度」申請に必要な、特別栽培農産物表示ガイドラインに基づく「兵庫県の地域慣行レベル」の登録作業を行います。

兵庫県認証食品



ひょうご安心ブランド

科学農薬や化学肥料の使用を50%以上低減し、残留農薬を国の基準の1/10以下となるなど、厳しい要件を満たしたものです。



ひょうご推奨ブランド

ひょうご推奨ブランド

生産方法や品質に個性や特長、地域性があり、食品衛生法等の法令基準等の要件を満たしたものです。

担い手支援

■地域の担い手支援

*部会活動を核とした取り組み

- ・生産部会を核として、定期的に栽培講習会や研修などを開催するとともに、部会員間の情報交換の場を提供することで、生産技術と品質向上の支援をいたします。
- ・地域や品目を横断し、担い手農業者の組織として発足（平成24年4月発足）した「JAみのり青年部」と連携して、地域農業が活性化し元気になる支援をいたします。



平成25年4月18日開催
(総会時点の部会員数 25名)

*集落営農組織の設立と運営を支援

集落営農の組織化、法人化、運営の支援を関係機関と連携して行います。

*新規就農者を支援

Uターンや定年帰農者など、新たに農業に取り組む方々の支援を積極的に行います。

*新たな農業振興「地域農業元気プラン」の取り組み

長期的な展望に立ち、将来を見据え、地域農業とともに地域社会が元気になるビジョンを描き、それを実現させる新たな農業振興の取り組み「地域農業元気プラン」に JA兵庫中央会、JA全農など各連合会とともに取り組みます。

*地域活性化の取り組み

北播磨地域の県民局・市町・JAなどで組織する「山田錦ビジネス創造推進協議会」が主体となり、「新たな山田錦ビジネスの創出事業」に取り組み、山田錦をキーワードに地域農業と地域産業の新たな事業の創出を支援します。

*人・農地プランの取り組み

地域の農地や地域の農業を守り継承する未来の設計図「人・農地プラン（地域農業マスタープラン）」の作成を関係機関と連携して支援します。



JAみのり青年部ロゴマーク



■TACによる担い手支援

*要望に沿った支援

認定農業者や集落営農組織など、意欲的に農業経営に取り組まれている農業者の多様な要望を伺い、それぞれの条件に沿った支援をいたします。

- ・集落営農組織支援 …… 組織の設立と運営支援
- ・販売農家支援 …… 栽培支援・経営支援
- ・新規就農者支援 …… 栽培技術支援・補助金や生産資材など関連する情報の提供

*定期的な訪問活動

各関係機関と連携し、営農や農業政策にかかる情報をお届けし、農業経営の改善を支援いたします。



* TACとは？

Team for Agricultural Coordination (農業コーディネーターの略)

Tとことん、A会って、Cコミュニケーション!!

TAC(タック)は、「地域農業の担い手に向くJA担当者」の愛称です。

* TACの役割は

- ①地域農業の担い手を訪問しご意見・ご要望をうかがい、誠実にお答えします。
- ②地域農業の担い手の経営に役立つ各種情報をお届けします。
- ③地域農業の担い手のご意見をもち帰り、JAグループの業務改善につなげます。



■コスト低減に向けた取り組み支援

集落営農や担い手の生産コストを軽減する対策として、次の支援事業を行っています。

*肥料・農薬大口利用者助成

組合員や集落営農組織など、全農家を対象に支援します。

- ①対象品目 ・JAみのりが供給する肥料及び農薬
- ②利用条件 ・予約取りまとめなどで、システム入力により供給した肥料・農薬
・年間利用額が30万円以上
- ③助成内容 ・年間取引額が30万円以上50万円未満は、供給額の2%を助成
・年間取引額が50万円以上100万円未満は、供給額の5%を助成
・年間取引額が100万円以上は、供給額の7%を助成

*集落営農等担い手助成

集落営農や認定農業者を対象に支援します。

- ①対象品目 ・水稻・小麦・白黒大豆用肥料・農薬
- ②利用条件 ・予約申し込みと同時に手続きが必要
- ③助成内容 ・肥料・農薬の予約価格の10%相当額を助成
注…肥料・農薬大口利用者助成と集落営農等担い手助成は併用できません。

*レンタルハウス助成

周年栽培や栽培品目の拡大・品質の向上に取り組まれている組合員農家を対象に支援します。

- ①対象品目 ・パイプハウスが対象
- ②利用条件 ・「ふれすこ」や市場出荷など、JAみのりを通じた販売を目的とした組合員農家が対象
- ③助成内容 ・本体助成は、1棟あたり本体費の20%（上限15万円）
・建築費助成は、1棟あたり建築費の40%（上限15万円）
注…連棟ハウス別途対応

*水稻機械植え苗助成

水稻苗の播種管理の労力とコスト軽減を目的に、集落営農等担い手を対象に支援します。

- ①対象品目 ・育苗センターが供給する苗が対象
- ②利用条件 ・予約申し込み分で一箇所配送が対象
- ③助成内容 ・利用箱数が500箱以上1,000箱未満は、1箱当たり50円引き
・利用箱数が1,000箱以上は、1箱当たり100円引き

(注) *詳しくは、お近くの営農経済センターへおたずね下さい。 *一部対象外品目があります。
*各助成事業の内容は、予告なく変更する場合があります。

西脇地域

●重点振興方策

牛糞堆肥等の有機資材による土づくりを基本とした環境にやさしい農業を推奨し、それぞれの農業形態に沿った“元氣の出る農業”の実践を支援します。



●酒造会社・消費者ニーズに合った米の生産と流通

- ・山田錦生産地の維持・発展のため、酒造会社と生産者、JAみのりが一体となりニーズに合った酒米を作ることにより、酒造会社との結びつきをさらに深めます。
- ・市内の完熟堆肥を利用した土づくりを広め、収量の安定化・良質米の生産に取り組みます。
- ・地場産米の安全安心をPRし、各営農経済センター・ふれすこ西脇店による販売拡大を行います。

●地域農畜産物の育成と産地の拡大

- ・完熟堆肥を利用した西脇市オリジナルブランドやひょうご安心ブランド農産物の生産拡大に取り組みます。
- ・地域の主要作物の生産拡大と地域独自ブランドの確立を目指します。
- ・レンタルハウス事業を利用した計画的生産による地域直売所の活性化と“元氣の出る農業”の実践と支援をします。
- ・休耕田や転作田を活用するために二年三作を推進します。
- ・畜産物の安定生産に取り組むとともに、低コスト生産技術の研究を行います。
- ・地域が振興する特産作物の育成を支援します。



●地域農業の担い手支援

地域農業の担い手が農業経営を持続できる体制を構築するため、安定生産と安定収入につながる情報提供や技術支援を行います。

■具体的活動目標

(単位:a.頭)

	24年度(実績)	25年度	26年度	27年度
黒大豆	5,700	6,000	6,800	8,000
たまねぎ	280	350	450	600
金ゴマ	570	800	1,000	1,200
小豆	80	150	280	400
肉牛	1,250	1,250	1,280	1,300

●二年三作推奨栽培モデル

■「一般農家向け」水稲+たまねぎ+黒大豆(金ゴマ)



■「大規模農家・営農組合農家向け」水稲+小麦+黒大豆(金ゴマ)



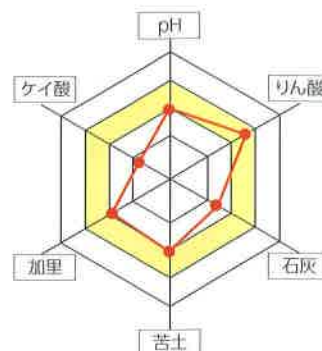
●西脇地域管内土壌分析結果(平均値)

■西脇地域

分析項目	目標値	分析値		判定
		H20年分	H22・23年分	
pH(H ₂ O)	6.0 - 6.5	6.0	6.5	適正
りん酸(mg/100g)	10 - 30	21	42	過剰傾向
石灰(mg/100g)	200 - 400	176	224	適正
苦土(mg/100g)	25 - 35	27	39	過剰傾向
加里(mg/100g)	20 - 30	19	34	過剰傾向
ケイ酸(mg/100g)	25以上	11	15	不足傾向

注:判定は、H22・23年分を対象としています。

■H20年分



■H22・23年分

